



ONTAP コマンドライン インターフェイスの使用 ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

ONTAPコマンドライン インターフェイスの使用	1
ONTAPコマンドラインインターフェイスについて学ぶ	1
CLIコマンド用のさまざまなONTAPシェルについて学習する	1
クラスタシェルでのノードシェルのコマンドおよびオプションへのアクセス	2
利用可能なノードシェル コマンドの表示	2
ONTAP CLIコマンドディレクトリをナビゲートする方法	3
ONTAP CLIで値を指定するためのルールを理解する	4
ONTAPコマンド履歴を表示し、履歴から任意のコマンドを再実行します	5
CLI コマンドを編集するための ONTAP キーボード ショートカット	6
ONTAP CLIコマンドの権限レベルを理解する	8
ONTAP CLIで権限レベルを設定する	8
ONTAP CLIの表示設定を行う	9
ONTAP CLIでクエリ演算子を使用する	10
ONTAP CLIの変更コマンドと削除コマンドで拡張クエリを使用する	11
fieldsパラメータを使用してONTAP showコマンドの出力を制限する	12
コマンド入力でのONTAP CLIの位置パラメータを使用する	13
位置パラメータとは	13
位置指定パラメータの特定	14
位置パラメータの使用例	14
ONTAP CLIのマニュアルページにアクセスする方法	15

ONTAP コマンドライン インターフェイスの使用

ONTAP コマンドライン インターフェイスについて学ぶ

ONTAP コマンドライン インターフェイス (CLI) は、コマンド ベースの管理インターフェイスです。ストレージ システム プロンプトでコマンドを入力すると、コマンドの結果がテキストで表示されます。

CLI コマンド プロンプトは `cluster_name::>` と表されます。

権限レベル (つまり、`set` コマンドの `-privilege` パラメータ) を `advanced` に設定すると、プロンプトにアスタリスク (*) が含まれます。例：

```
cluster_name::*>
```

`set` の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/set.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/set.html) ["ONTAP コマンド リファレンス"] をご覧ください。

CLI コマンド用のさまざまな ONTAP シェルについて学習する

クラスタには、CLI コマンド用の3つの異なるシェル (*clustershell*、*nodeshell*、*systemshell*) があります。これらのシェルはそれぞれ異なる目的で使用され、異なるコマンドセットを備えています。

- クラスタシェルは、クラスタにログインすると自動的に開始されるネイティブ シェルです。

クラスタの設定と管理に必要なすべてのコマンドが用意されています。clustershell CLI ヘルプ (clustershell プロンプトで `?` によって起動) には、利用可能な clustershell コマンドが表示されます。clustershell の `man` コマンドは、指定された clustershell コマンド (`man <command_name>` のマニュアルページを表示します。`man` の詳細については、"[ONTAP コマンド リファレンス](#)"を参照してください。

- ノードシェルは、ノード レベルでのみ有効なコマンドのための特別なシェルです。

ノードシェルには `system node run` コマンドからアクセスできます。`system node run` の詳細については、"[ONTAP コマンド リファレンス](#)"を参照してください。

ノードシェル CLI ヘルプ (ノードシェル プロンプトで `?` または `help` によってトリガーされる) は、使用可能なノードシェルコマンドを表示します。ノードシェル内の `man` コマンドは、指定されたノードシェルコマンドのマニュアルページを表示します。

よく使用されるノードシェル コマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリング (エイリアス) されており、クラスタシェルからも実行できます。

- システムシェルは、診断とトラブルシューティングの目的に限って使用する下位レベルのシェルです。

システムシェルと関連する `diag` アカウントは、低レベルの診断を目的としています。アクセスには診断

権限レベルが必要であり、トラブルシューティングタスクを実行するテクニカルサポート専用予約されています。

この手順で説明されているコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

クラスタシェルでのノードシェルのコマンドおよびオプションへのアクセス

ノードシェルのコマンドとオプションには、ノードシェルからアクセスできます。

```
system node run -node nodename
```

よく使用されるノードシェル コマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリング (エイリアス) されており、クラスタシェルからも実行できます。

クラスタシェルでサポートされているノードシェルオプションは、``vserver options clustershell`` コマンドを使用してアクセスできます。これらのオプションを確認するには、``vserver options -vserver nodename_or_clustername -option-name ?`` を使用してクラスタシェルCLIに問い合わせることができます。

クラスタシェルでノードシェルまたはレガシーのコマンドまたはオプションを入力した場合、そのコマンドまたはオプションに相当するクラスタシェル コマンドがある場合には該当するクラスタシェル コマンドを使用するように通知されます。

クラスタシェルでサポートされていないノードシェルまたはレガシー コマンドやオプションを入力すると、ONTAPはそのコマンドまたはオプションの「サポートされていません」ステータスを通知します。

利用可能なノードシェル コマンドの表示

ノードシェルからCLIヘルプを使用して、利用可能なノードシェル コマンドのリストを取得することができます。

手順

1. ノードシェルにアクセスするには、クラスタシェルのシステム プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
system node run -node {nodename|local}
```

``local`` は、クラスタへのアクセスに使用したノードです。



``system node run`` コマンドにはエイリアスコマンド ``run`` があります。

2. 利用可能なノードシェル コマンドのリストを表示するには、ノードシェルで次のコマンドを入力します。

```
[commandname] help
```

``_commandname_`` は、使用可能かどうかを表示するコマンドの名前です。
``_commandname_`` を含めない場合、CLIは使用可能なすべてのノードシェルコマンドを表示します。

`exit`を入力するか、Ctrl-d を入力すると、クラスタシェル CLI に戻ります。

`exit`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/exit.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/exit.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

利用可能なノードシェル コマンドを表示する例

次の例では、node2 という名前のノードのノードシェルにアクセスし、nodeshell コマンドの情報を表示します environment :

```
cluster1::> system node run -node node2
Type 'exit' or 'Ctrl-D' to return to the CLI

node2> environment help
Usage: environment status |
      [status] [shelf [<adapter>[.<shelf-number>]]] |
      [status] [shelf_log] |
      [status] [shelf_stats] |
      [status] [shelf_power_status] |
      [status] [chassis [all | list-sensors | Temperature | PSU 1 |
PSU 2 | Voltage | SYS FAN | NVRAM6-temperature-3 | NVRAM6-battery-3]]
```

ONTAP CLIコマンドディレクトリをナビゲートする方法

CLIのコマンドは、コマンド ディレクトリ別の階層に整理されています。階層内のコマンドを実行するには、完全なコマンド パスを入力するか、ディレクトリ構造内を移動します。

CLIの使用時にコマンド ディレクトリにアクセスするには、プロンプトでディレクトリの名前を入力してEnterキーを押します。ディレクトリ名がプロンプト テキストに表示され、指定したコマンド ディレクトリにアクセスしていることがわかります。コマンド階層のより下のレベルに移動するには、コマンド サブディレクトリの名前を入力してEnterキーを押します。サブディレクトリ名がプロンプト テキストに表示され、コンテキストがそのサブディレクトリに移ります。

コマンド全体を入力することで、複数のコマンドディレクトリ間を移動できます。例えば、プロンプトで `storage disk show` コマンドを入力することで、ディスクドライブに関する情報を表示できます。また、次の例に示すように、一度に1つのコマンドディレクトリを移動してコマンドを実行することもできます：

```
cluster1::> storage
cluster1::storage> disk
cluster1::storage disk> show
```

``storage disk show``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/storage-disk-show.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/storage-disk-show.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

コマンドを省略するには、現在のディレクトリ内でコマンドを一意にする最小限の文字数のみを入力します。例えば、前の例のコマンドを省略するには、``st d sh``と入力します。また、Tab キーを使用して省略されたコマンドを展開したり、コマンドのパラメータ（デフォルトのパラメータ値を含む）を表示したりすることもできます。

``top``コマンドを使用してコマンド階層の最上位レベルに移動できます。また、``up``コマンドまたは ``.``コマンドを使用してコマンド階層の1レベル上に移動できます。



CLIで先頭にアスタリスク (*) が付いているコマンドおよびコマンドオプションは、advanced 権限レベル以上でのみ実行できます。

関連情報

- "上位"
- "上"

ONTAP CLIで値を指定するためのルールを理解する

ほとんどのコマンドには、1つ以上の必須またはオプションのパラメータが含まれます。多くのパラメータでは、値を指定する必要があります。CLIで値を指定するには、いくつかのルールがあります。

- 値には、数値、ブール値指定子、定義済み値の列挙リストからの選択、またはテキスト文字列を指定できます。

一部のパラメータでは、2つ以上の値をカンマで区切って指定できます。カンマで区切られた値のリストは、引用符 (" ") で囲む必要はありません。テキスト、スペース、またはクエリ文字（クエリとして意図されていない場合）、または小なり記号または大なり記号で始まるテキストを指定する場合は、必ずそのエンティティを引用符で囲む必要があります。

- CLI は疑問符 (?) を特定のコマンドのヘルプ情報を表示するコマンドとして解釈します。
- コマンド名、パラメータ、特定の値など、CLI に入力する一部のテキストでは、大文字と小文字は区別されません。

たとえば、``vserver cifs``コマンドのパラメータ値を入力する際、大文字と小文字は区別されません。ただし、ノード、Storage Virtual Machine (SVM)、アグリゲート、ボリューム、論理インターフェイスの名前など、ほとんどのパラメータ値では大文字と小文字が区別されます。

- 文字列またはリストを受け取るパラメータの値をクリアする場合は、空の引用符 ("") またはダッシュ ("-") を指定します。
- ハッシュ記号 (# (ポンド記号とも呼ばれます)) は、コマンドライン入力のコメントを示します。使用する場合は、コマンドラインの最後のパラメータの後に表示される必要があります。

CLIは`#`と行の終わりまでのテキストを無視します。

次の例では、テキストコメントを含むSVMを作成します。その後、SVMを変更してコメントを削除します：

```
cluster1::> vservers create -vservers vs0 -subtype default -rootvolume
root_vs0
-aggregate aggr1 -rootvolume-security-style unix -language C.UTF-8 -is
-repository false -ip-space ip-spaceA -comment "My SVM"
cluster1::> vservers modify -vservers vs0 -comment ""
```

次の例では、`#`記号を使用するコマンドラインコメントは、コマンドが実行する内容を示しています。

```
cluster1::> security login create -vservers vs0 -user-or-group-name new-
admin
-application ssh -authmethod password #This command creates a new user
account
```

`security login create`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

ONTAPコマンド履歴を表示し、履歴から任意のコマンドを再実行します

各CLIセッションには、そのセッションで実行されたすべてのコマンドの履歴が保持されます。現在のセッションのコマンド履歴を表示できます。コマンドを再実行することもできます。

コマンド履歴を表示するには、`history` コマンドを使用します。

コマンドを再発行するには、次のいずれかの引数を指定して`redo`コマンドを使用します：

- 再実行するコマンドの一部

たとえば、実行した唯一の`volume`コマンドが`volume show`である場合、`redo volume`コマンドを使用してコマンドを再実行できます。

- `history`コマンドによってリストされる、前のコマンドの数値ID

たとえば、`redo 4`コマンドを使用して、履歴リストの4番目のコマンドを再発行できます。

- 履歴リストの末尾からの数えた数

たとえば、`redo -2`コマンドを使用して、2つ前に実行したコマンドを再発行できます。

たとえば、コマンド履歴の末尾から3番目のコマンドを再実行するには、次のコマンドを入力します。

```
cluster1::> redo -3
```

関連情報

- ["履歴"](#)
- ["やり直す"](#)
- ["ボリューム"](#)

CLI コマンドを編集するための ONTAP キーボード ショートカット

現在のコマンドプロンプトに表示されているコマンドがアクティブコマンドです。キーボードショートカットを使用すると、アクティブコマンドを素早く編集できます。これらのキーボードショートカットは、UNIXのtcshシェルやEmacsエディタのショートカットに似ています。

次の表は、CLI コマンドを編集するためのキーボード ショートカットを示しています。`Ctrl-`は、Ctrl キーを押したまま、その後に指定された文字を入力することを示します。`Esc-`は、Esc キーを押して放し、その後に指定された文字を入力することを示します。

状況	次のいずれかのキーボードショートカットを使用します...
カーソルを1文字分後ろに移動	<ul style="list-style-type: none">• Ctrl-B• 戻る矢印
カーソルを1文字分前進させる	<ul style="list-style-type: none">• Ctrl-F• 前進矢印
カーソルを1単語分後ろに移動	Esc-B
カーソルを1単語分前進させる	Esc-F
カーソルを行頭に移動する	Ctrl-A
カーソルを行末に移動する	Ctrl-E
コマンドラインの先頭からカーソル位置までのコンテンツを削除し、カットバッファに保存します。カットバッファは、一部のプログラムで_クリップボード_と呼ばれるものと同様の一時メモリとして機能します。	Ctrl-U

状況	次のいずれかのキーボード ショートカットを使用します...
カーソルから行末までのコマンドラインの内容を削除し、カットバッファに保存します。	Ctrl-K
カーソルから次の単語の末尾までのコマンドラインの内容を削除し、カットバッファに保存します	Esc-D
カーソルの左側の単語を切り取ってバッファに保存する	Ctrl-W
切り取ったバッファの内容をヤंकし、カーソルのあるコマンドラインにプッシュします	Ctrl-Y
カーソルの前の文字を削除します	<ul style="list-style-type: none"> • Ctrl-H • バックスペース
カーソルがある文字を削除します	Ctrl-D
ラインをクリア	Ctrl-C
画面をクリアする	Ctrl-L
コマンドライン上の現在の内容を、履歴リストの前のエントリに置き換える。 キーボードショートカットを繰り返すたびに、履歴カーソルが前のエントリに移動します。	<ul style="list-style-type: none"> • Ctrl-P • Esc-P • 上矢印
コマンドラインの現在の内容を履歴リストの次のエントリに置き換えます。キーボードショートカットを繰り返すたびに、履歴カーソルが次のエントリに移動します。	<ul style="list-style-type: none"> • Ctrl-N • Esc-N • 下矢印
部分的に入力されたコマンドを展開するか、現在の編集位置から有効な入力を一覧表示します	<ul style="list-style-type: none"> • タブ • Ctrl-I
状況依存ヘルプを表示する	?
疑問符 `?` 文字の特殊マッピングをエスケープします。例えば、コマンドの引数に疑問符を入力するには、Escキーを押してから `?` 文字を入力します。	Esc-?
TTY出力を開始する	Ctrl-Q

状況	次のいずれかのキーボード ショートカットを使用します...
TTY出力を停止する	Ctrl-S

ONTAP CLIコマンドの権限レベルを理解する

ONTAPコマンドとパラメータは、*admin*、*advanced*、*_diagnostic_*の3つの権限レベルで定義されています。これらの権限レベルは、タスクの実行に必要なスキルレベルを反映しています。

- **admin**

ほとんどのコマンドとパラメータはこのレベルで利用可能です。これらは一般的なタスクや定型的なタスクに使用されます。

- **上級**

このレベルのコマンドとパラメータは頻繁には使用されず、高度な知識が必要であり、不適切に使用すると問題が発生する可能性があります。

高度なコマンドまたはパラメータは、サポート担当者のアドバイスに従ってのみ使用してください。

- **診断**

診断コマンドとパラメータは潜在的にシステムを停止させる可能性があります。これらはサポート担当者が問題を診断し、解決するためにのみ使用されます。

ONTAP CLIで権限レベルを設定する

CLIで`set`コマンドを使用して権限レベルを設定できます。権限レベル設定の変更は、現在実行中のセッションにのみ適用されます。セッション間では保持されません。

手順

1. CLIで権限レベルを設定するには、`set`コマンドを`-privilege`パラメータとともに使用します。

権限レベルの設定例

次の例では、権限レベルを*advanced*に設定し、その後*admin*に設定します。

```
cluster1::> set -privilege advanced
Warning: These advanced commands are potentially dangerous; use them only
when directed to do so by NetApp personnel.
Do you wish to continue? (y or n): y
cluster1::*> set -privilege admin
```

`set`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/set.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/set.html)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

ONTAP CLIの表示設定を行う

CLIセッションの表示設定は`set`コマンドと`rows`コマンドを使用して行うことができます。設定した設定は、現在実行中のセッションにのみ適用されます。セッション間では保持されません。

タスク概要

次の CLI 表示設定を設定できます：

- コマンドセッションの権限レベル
- 潜在的に破壊的なコマンドに対して確認が発行されるかどうか
- `show`コマンドがすべてのフィールドを表示するかどうか
- フィールド区切り文字として使用する文字
- データサイズを報告する際のデフォルトの単位
- インターフェイスが出力を一時停止する前に、現在のCLIセッションで画面に表示される行数

優先行数が指定されていない場合は、端末の実際の高さに基づいて自動的に調整されます。実際の高さが定義されていない場合は、デフォルトの行数は24です。

- デフォルトのStorage Virtual Machine (SVM) またはノード
- 継続中のコマンドがエラーに遭遇した場合に停止するかどうか

手順

1. CLI 表示設定を指定するには、`set` コマンドを使用します。

現在の CLI セッションで画面に表示される行数を設定するには、`rows` コマンドを使用することもできます。

`set`および`rows`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/)["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

CLIでの表示設定の例

次の例では、フィールド区切り文字としてコンマを設定し、`GB`をデフォルトのデータサイズ単位として設定し、行数を50に設定します：

```
cluster1::> set -showseparator "," -units GB
cluster1::> rows 50
```

関連情報

- ["show"](#)
- ["設定"](#)
- ["行"](#)

ONTAP CLIでクエリ演算子を使用する

管理インターフェイスでは、クエリおよびUNIX形式のパターンとワイルドカードがサポートされており、コマンド パラメータ引数の複数の値を照合できます。

次の表に、サポートされるクエリ演算子を示します。

オペレーター	概要
*	すべてのエントリに一致するワイルドカード。 たとえば、コマンド <code>\volume show -volume *tmp*</code> は、名前に文字列 <code>tmp</code> が含まれるすべてのボリュームのリストを表示します。
!	NOT演算子。 一致しない値を示します。たとえば、 <code>!vs0</code> は値 <code>vs0</code> と一致しないことを示します。
OR演算子。 比較する2つの値を区切ります。 例えば、 <code>*vs0</code>	<code>vs2*vs0</code> または <code>vs2</code> のいずれかに一致します。複数のORステートメントを指定できます。例えば、 <code>a</code>
b*	<code>*c*</code> はエントリ <code>a</code> 、 <code>b</code> で始まる任意のエントリ、 <code>c</code> を含む任意のエントリに一致します。
..	範囲演算子。 たとえば、 <code>5..10</code> は <code>5</code> から <code>10</code> までの任意の値と一致します。
<	小なり演算子。 たとえば、 <code><20</code> は <code>20</code> より小さい任意の値と一致します。
>	大なり演算子。 たとえば、 <code>>5</code> は <code>5</code> より大きい任意の値と一致します。

オペレーター	概要
<=	以下演算子。 たとえば、`<=5`は`5`以下の任意の値と一致します。
>=	以上演算子。 たとえば、`>=5`は`5`以上の任意の値と一致します。
{query}	拡張クエリ。 拡張クエリは、コマンド名に続けて、他のパラメータの前に最初の引数として指定する必要があります。 たとえば、このコマンド `volume modify {-volume *tmp*} -state offline` は、名前に文字列 `tmp` が含まれるすべてのボリュームをオフラインに設定します。

クエリ文字をリテラルとして解析する場合は、正しい結果が返されるように、文字を二重引用符で囲む必要があります（たとえば、`"<10"`、`"0..100"`、`"*abc*"`、または `"a|b"`）。

特殊文字が解釈されないように、rawファイル名は二重引用符で囲む必要があります。これは、クラスタシェルで使用される特殊文字にも当てはまります。

1つのコマンドラインで複数のクエリ演算子を使用できます。例えば、このコマンド `volume show -size >1GB -percent-used <50 -vserver !vs1` は、サイズが1GBを超え、使用率が50%未満で、「`vs1`」という名前のStorage Virtual Machine (SVM) に存在しないすべてのボリュームを表示します。

関連情報

["CLIコマンドを編集するためのキーボードショートカット"](#)

ONTAP CLIの変更コマンドと削除コマンドで拡張クエリを使用する

拡張クエリを使用すると、指定された値を持つオブジェクトを照合して操作を実行できます。

拡張クエリは、中括弧（{}）で囲んで指定します。拡張クエリは、コマンド名の後に続く最初の引数として、他のパラメータの前に指定する必要があります。例えば、名前に文字列 `tmp` を含むすべてのボリュームをオフラインに設定するには、次の例のようにコマンドを実行します：

```
cluster1::> volume modify {-volume *tmp*} -state offline
```

拡張クエリは通常 `modify` および `delete` コマンドでのみ役立ちます。`create` または `show` コマンドでは意味を持ちません。

クエリと変更操作の組み合わせは便利なツールです。しかし、実装を誤ると混乱やエラーを引き起こす可能性があります。例えば、(advanced privilege) `system node image modify` コマンドを使用してノードのデフォルトソフトウェアイメージを設定すると、もう一方のソフトウェアイメージが自動的にデフォルトに設定されなくなります。次の例のコマンドは、実質的にはヌル操作です：

```
cluster1::*> system node image modify {-isdefault true} -isdefault false
```

このコマンドは、現在のデフォルトイメージを非デフォルトイメージとして設定し、その後、新しいデフォルトイメージ（以前の非デフォルトイメージ）を非デフォルトイメージに設定します。これにより、元のデフォルト設定が保持されます。この操作を正しく実行するには、次の例のようにコマンドを使用します：

```
cluster1::*> system node image modify {-iscurrent false} -isdefault true
```

fieldsパラメータを使用してONTAP showコマンドの出力を制限する

`-instance`パラメータを
`show`コマンドで使用して詳細を表示すると、出力が長くなり、必要以上の情報が含まれる可能性があります。`show`コマンドの
`fields`パラメータを使用すると、指定した情報のみを表示できます。

例えば、`volume show -instance`を実行すると、複数の画面にわたる情報が表示される可能性があります。`volume show -fields`fieldname[,fieldname...]`を使用して、出力をカスタマイズし、指定したフィールドのみ（常に表示されるデフォルトのフィールドに加えて）を含めることができます。`-fields ?`を使用して、`show`コマンドに有効なフィールドを表示することもできます。

次の例は、`-instance`パラメータと`-fields`パラメータ間の出力の違いを示しています：

```

cluster1::> volume show -instance

                                Vserver Name: cluster1-1
                                Volume Name: vol0
                                Aggregate Name: aggr0
                                Volume Size: 348.3GB
                                Volume Data Set ID: -
                                Volume Master Data Set ID: -
                                Volume State: online
                                Volume Type: RW
                                Volume Style: flex
                                ...
                                Space Guarantee Style: volume
                                Space Guarantee in Effect: true
                                ...
Press <space> to page down, <return> for next line, or 'q' to quit...
...
cluster1::>

cluster1::> volume show -fields space-guarantee,space-guarantee-enabled

vserver  volume  space-guarantee  space-guarantee-enabled
-----  -
cluster1-1  vol0    volume           true
cluster1-2  vol0    volume           true
vs1         root_vol
           volume           true
vs2         new_vol
           volume           true
vs2         root_vol
           volume           true
...
cluster1::>

```

コマンド入力でのONTAP CLIの位置パラメータを使用する

ONTAP CLIの位置パラメータ機能を利用すると、コマンド入力の効率を高めることができます。コマンドをクエリすることで、そのコマンドの位置パラメータを特定できます。

位置パラメータとは

- 位置パラメータは、パラメータ値を指定する前にパラメータ名を指定する必要がないパラメータです。
- 位置パラメータは、`**command_name ?**`出力に示されているように、同じコマンド内の他の位置パラメ

ータとの相対的な順序を守っている限り、コマンド入力内で非位置パラメータと混在させることができます。

- 位置パラメータは、コマンドの必須パラメータまたはオプションパラメータになります。
- パラメータは、あるコマンドでは位置指定可能だが、別のコマンドでは位置指定不可になる場合があります。



位置パラメータ機能をスクリプトで使用する場合は、特に位置パラメータがコマンドに対してオプションである場合や、位置パラメータの前にオプションのパラメータがリストされている場合には推奨されません。

位置指定パラメータの特定

```
`*_command_name`  
?_*` コマンド出力で位置パラメータを識別できます。位置パラメータは、パラメータ名を角括弧で囲み、以下のいずれかの形式で指定します：
```

- `[-parameter_name] `parameter_value`` は位置指定の必須パラメータを示します。
- `[[-parameter_name] parameter_value]` は、位置指定可能なオプションパラメータを示します。

たとえば、``command_name`?` 出力に次のように表示された場合、パラメータは、それが現れるコマンドに対して位置指定されます：

- `[-lif] <lif-name>`
- `[[-lif] <lif-name>]`

ただし、次のように表示されている場合、パラメータは、それが表示されるコマンドに対して非位置パラメータになります：

- `-lif <lif-name>`
- `[-lif <lif-name>]`

位置パラメータの使用例

次の例では、`volume create ?` 出力に、コマンドに対して `-volume`、`-aggregate`、`-size`` の3つのパラメータが位置指定であることが示されています。

```

cluster1::> volume create ?
  -vserver <vserver name>           Vserver Name
  [-volume] <volume name>           Volume Name
  [-aggregate] <aggregate name>     Aggregate Name
  [[-size] {<integer>[KB|MB|GB|TB|PB]] Volume Size
  [ -state {online|restricted|offline|force-online|force-offline|mixed} ]
                                         Volume State (default: online)
  [ -type {RW|DP|DC} ]                Volume Type (default: RW)
  [ -policy <text> ]                  Export Policy
  [ -user <user name> ]               User ID
  ...
  [ -space-guarantee|-s {none|volume} ] Space Guarantee Style (default:
volume)
  [ -percent-snapshot-space <percent> ] Space Reserved for Snapshot
Copies
  ...

```

次の例では、位置パラメータ機能を利用せずに `volume create` コマンドが指定されています。

```

cluster1::> volume create -vserver svml -volume vol1 -aggregate aggr1 -size 1g
-percent-snapshot-space 0

```

次の例では、位置パラメータ機能を使用してコマンド入力の効率を高めています。位置パラメータは `volume create` コマンド内で非位置パラメータと混在しており、位置パラメータの値はパラメータ名を指定せずに入力します。位置パラメータは `volume create ?` 出力で示された順序と同じ順番で指定します。つまり、`-volume` の値は `aggregate` の値よりも先に指定し、さらに `size` の値よりも先に指定します。

```

cluster1::> volume create vol2 aggr1 1g -vserver svml -percent-snapshot-space 0

```

```

cluster1::> volume create -vserver svml vol3 -snapshot-policy default aggr1
-nvfail off 1g -space-guarantee none

```

ONTAP CLIのマニュアルページにアクセスする方法

ONTAPマニュアル (man) ページでは、ONTAP CLIコマンドの使用方法について説明しています。これらのページはコマンドラインから利用できるほか、リリース固有の `_コマンドリファレンス_` にも掲載されています。

ONTAPコマンドラインで `man <command_name>` コマンドを使用すると、指定したコマンドのマニュアルページが表示されます。コマンド名を指定しない場合は、マニュアルページのインデックスが表示されます。`man man` コマンドを使用すると、`man` コマンド自体に関する情報を表示できます。`q` を入力すると、マニュアルページを終了できます。

ご使用のリリースで利用できる管理者レベルおよび詳細レベルの ONTAP コマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。